

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
国 語	現代の国語	1 年普通科	2 単位	現代の国語 (数研出版)	漢検 漢字学習 トレーニング 3 ／準 2 ／ 2 級 (日本漢字能力 検定協会)

到達目標	① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 ③ 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを深める。 ④ 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	--

評価の観点	① 知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」において、自分の考えをまとめ、深めて目的や場面に応じて的確に話したり、聞き取ったりしている。 「書くこと」において、相手や目的に応じて適切に文章を書くことができる。 「読むこと」において、自分の考えを深めたり発展させたりしながら、様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんだりする。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	積極的に活動に取り組み、国語や言語文化に対する関心を深めている。自分の考えを深めたり発展させたりしながら、進んで表現したり理解したりするとともに伝え合おうとしている。

学習の評価	1 定期考査では①「知識・技能」②「思考・判断・表現」を中心に評価する。 2 予習状況・課題の提出状況・授業中の発問と応答によって③「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 1 の評価に 2 および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	学習到達目標
社会と文化	「コミュニケーション能力とは何か」	・コミュニケーション能力について認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
	「水の東西」	・西洋文化、日本文化それぞれの特徴について理解し、考えたことを適切に表現できる。
対比する	「デジタルメディア時代の複製」	・自分の意見について、読み手の理解が得られるよう、文章の構成や展開を工夫して書くことができる。
新しい視点	「ポストプライバシー」	・具体例など本文の叙述を基に、今日の社会についての筆者の考察を的確に捉えている。

実用の文章	「資料を分析して考えをまとめる」	・資料から読み取ったことや自分の考えを、語句や表現等を適切に用い、意図が明確に伝わるように書くことができる。
問題を提起する	「感情暴走社会の由来」	・評論の展開を理解し、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、論理的に文章を書くことができる。
環境と科学	「動物園というメディア」	・筆者の問題意識を自らの生活に引きつけて捉え、様々な観点から情報を収集、整理して考えを深める。
ことばの働き	「ものことば」	・筆者の主張を的確に読み取り、ことばの役割や使い方について再確認する。
賛否を述べる	「命は誰のものなのか」	・本文をもとに自分の考えを持ち、相手に意図が伝わるように文章を整えることができる。
新しい視点	「政治的思考」	・文章の主要なテーマを的確に理解し、「政治」に向かう態度について、他者と意見を交わすことで考えを深める。
解釈を述べる	「事実なのか考えなのか」	・読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すことができる。
認識の枠組み	「他者を理解すること」	・評論読解の着眼点を意識して読解し、文章の主題を自分の体験に引きつけて考える。
	「浪費を妨げる社会」	・筆者独自に意味づけされた概念を的確に理解し、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価している。
具体例を示す	「動的平衡の回復」	・評論の内容に沿った具体例を調べ、他者にわかりやすく説明する。
意見を述べる	「無痛化する社会のゆくえ」	・事実と筆者の主張を区別して内容を理解し、別のテキストとも関連づけながら、自分の意見を述べる。
認識の枠組み	「白」	・抽象度の高い文章を丁寧に追いかけることで、様々な着眼点に気づき、自分の考えを深める。
言語技術の実践	「ディベート」	・論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的に応じて、結論の出し方を工夫している。
関連付ける	「絵を前に思いをめぐらす」	・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し、自分の考えを表現しようとしている。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
国 語	言語文化	1年普通科	4単位	言語文化 (数研出版)	完全マスター 古典文法 (第一学習社) 新国語便覧 (第一学習社)

到達目標	① 国語の知識や技能を身に付け、理解を深める。 ② 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 ③ 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いを深める。 ④ 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	---

評価の観点	① 知識・技能	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙等を理解し、知識を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。目的に応じて、様々な文章を的確に読み取ることができる。 「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	積極的に活動に取り組み、国語や言語文化に対する関心を深めている。自分の考えを深めたり発展させたりしながら、進んで表現したり理解したりするとともに伝え合おうとしている。

学習の評価	1 定期考査では①「知識・技能」②「思考・判断・表現」を中心に評価する。 2 予習状況・課題の提出状況・授業中の発問と応答によって③「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 1の評価に2および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	学 習 到 達 目 標
【古】説話 宇治拾遺物語	「児のそら寝」 「絵仏師良秀」 古文の基礎	・古文に親しみをもち、話の面白さを理解する。 ・品詞を理解し、自分で予習ができる。 ・品詞の種類について理解する。 ・活用形と用言の活用の種類について理解する。
【漢】入門	入門一、二	・訓点、書き下し文のきまり、再読文字を理解する。
【古】随想 徒然草	「ある人、弓射ることを習ふに」 「丹波に出雲といふ所あり」	・助動詞の働きを理解し、口語訳に活用できる。 ・作者の人生観や古典の世界観を味わい、意欲的に読み進めることができる。

近代小説	「羅生門」	・主人公の心理と行動の変化を正確に読み取り、情景描写に留意しながら文学作品を読むことができる。
詩歌	「I was born」 短歌、俳句	・朗読により詩のリズムを味わう ・詩の主題を捉え、解釈を深める。 ・韻文の特徴を知り、心地よいリズムを味わうとともに、言葉から情景と心情を読み取る
【古】歌物語 伊勢物語	「芥川」 「東下り」	・適切な口語訳を通して、物語の展開や登場人物の心情を的確に読み取ることができる。 ・諧謔表現や和歌を理解し、主題や心情を読み取ることができる。
【漢】故事	「漁夫之利」 「狐借虎威」	・故事成語のもとになった話の内容を理解する。
【古】随想 枕草子	「ありがたきもの」 「雪のいと高う降りたるを」	・適切な口語訳を通して、物語の展開や登場人物の心情を的確に読み取ることができる。 ・敬語の用法を理解し、現代語訳の方法を学ぶ。
【漢】史伝	「管鮑之交」 「先從隗始」	・故事成語・成句を正しく理解し、長文訓読に慣れる。 ・基本句形等を理解し、長文の説話の内容を理解できる。
近代小説	「山月記」	・人物、情景を的確に捉え、人物の心情について自分の言葉で説明することができる。
【古】和歌	万葉集、古今和歌集、新古今和歌集	・序詞、縁語、掛詞等の用法を理解する。
【漢】漢詩	漢詩	・漢詩のきまりについて理解する。
【漢】思想	「論語」	・作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。
近代小説	「城の崎にて」	・文体や表現技法に注意して作品を読み、作品の主題を自らに引きつけて考える。
現代小説	「サラバ！」	・人物どうしの関係性を読み取り、文化の多様性のあり方について考える。

教 科	科 目	対象学年 学科	単位数	教科書	使用教材
地 歴	地理総合	2学年 普通科・ 国際科	2単位	「地理総合―世界に学び地域へ つなぐ―」(二宮書店)、「詳解現 代地図最新版」(二宮書店)	「新編地理資料」(東京法令出版) 「サクシード地理」(啓隆社)

到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	---

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	知識:地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 技能:地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

学習の評価	① 定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ② 論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ① ②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習 内容	到 達 目 標
地 図 と G I S の 活 用	1 球面上 の世界	・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的なしくみ、地球上での位置の示し方を理解する。 ・経度の違いから時差の概念を捉え、日常生活における時差計算の技能を身につけ、球面として成り立つ世界認識をもつ。
	2 日本の 位置と領 域	・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、スケール、視点、図法などを変化させながら、世界における日本の位置を理解する。 ・グローバルな立場から日本の領域を理解するために、国境や国家の領域の世界的な基準を捉えながら、日本が抱える周辺諸国間との領有権の問題や海洋資源の利用について考える。
	3 国内や 国家間の 結びつき	・グローバル化が進む世界において、国家間の協調や不均衡を理解するために、世界の実態を捉えるための道具としての統計地図やグラフのつくり方を理解する。 ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本・サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身につける。 ・グローバルな視点から持続可能な社会の形成のために、資料を根拠として示しながら課題解決のための方策を多面的・多角的に考える。
	4 暮らしの なかの地 図と GIS	・身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 ・地図情報を活用する方法として、紙地図と電子地図としての GIS があることを理解し、地理院地図や地形図を通して認識する。 ・GIS が日常生活にも利用されている実例を捉え、大量の地理情報を処理できる GIS の特徴や利用方法、そのしくみについて理解する。 ・GIS で作成した地図を重ね合わせ、地域の特徴を分析する方法と技能を身につける。
地 理 的 環 境 の 特 色	1 地形と 生活文化	・世界の大地形の広がりやプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連し、変動帯に位置する場所では山岳地域や高原を形成し、地震あるいは場所によって火山を伴うことを理解する。 ・河川、海岸などの外的営力による地形の形成とその広がり、およびそれらの地形と対応した人々の生活と地形を取り巻く環境の変化について、写真や地形図などの資料を通して考える。
	2 気候と 生活文化	・世界的な視野から大気や海流が循環するしくみを捉え、地球上ではそれらの影響を反映した気候の地域性が生まれていることを理解する。 ・降水量と気温の特徴をふまえながら世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、植生や農業などの人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。
	3 産業と 生活文化	・世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業を基盤に成り立つ現状を捉え、世界スケールにおける第1次産業、第2次産業、第3次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・産業の発達と生活文化がどのようにかわるのか、産業はどのように変化してきているのか、主題図などの資料を通じて理解を深める。

	4 宗教・言語と生活文化	・世界でみられる生活文化の多様性について、宗教、言語の分布や人々との関わりを主題図や写真などの資料を通じて理解するとともに分布を示す要因について理解する。 ・世界の少数民族、移民、難民の問題を捉えながら、マイノリティなどをふまえた多様な人々に配慮し、自他の文化を尊重する社会の実現を考える。
世界各地の生活文化	1 経済発展と生活文化の変化～東アジア	社会経済システムの変化に焦点を当て、東アジアの中国と韓国を例に両国の特徴を主題図やグラフなどの資料を通じて捉える。特に世界や日本、中国、韓国の3か国とのつながりから両国の経済発展の発達過程について理解し、経済発展の結果として起きている様々な問題について生活文化と対応させながら考える。 ・産業の発達と地域統合に焦点を当て、ヨーロッパを例に多様性と一体化をもつ産業の特徴やその歴史的背景を捉え、気候、言語・宗教の分布などを関連させながら主題図やグラフなどの資料をもとに理解する。地域統合の長所とともにイギリスのEU離脱や加盟各国の移民排斥の動きの強まりなどの課題を整理する。地域間格差が生じている現状を捉え、これからのヨーロッパのよりよい社会を目指して課題について考える。 ・社会経済システムのグローバル化に焦点を当て、主題図や写真などの資料を通じて、民族構成から多様な社会と歴史的背景を理解する。企業的農業の発達とアメリカ合衆国の外食産業やICT産業などの多国籍企業が世界の経済や生活文化に影響を与えている現状を捉える。アメリカ合衆国の貿易の問題についてグローバルな視点で考える。
	2 宗教の多様性と生活文化～ASEAN諸国	
	3 水の恵みと生活文化～南アジア	
	4 イスラム社会の多様性と生活文化～イスラム圏	
	5 多様な気候と生活文化～アフリカ	
	6 経済統合による生活文化の変化～EUと周辺諸国	
	7 寒冷な気候と生活文化～ロシア	
	8 グローバル化による生活文化の変化～アメリカ・カナダ	・開発に焦点を当て、ラテンアメリカで様々な人びとが生活している理由やプランテーションをはじめ農業や鉱業などの産業の多様性がみられる理由について、主題図やグラフなどの資料をもとに多様な自然環境や植民地時代の開発の影響、そして近年の社会経済システムの変化から捉える。鉱工業が発展していく中で生じている貧富の差の現状を捉え、その解決に向けた取り組みを考える。 ・開発に焦点を当て、オーストラリアとニュージーランドの自然環境の違いを比較し、主題図や写真などの資料から植民の歴史とそこに展開する産業を捉え、両国の生活文化の違いを理解する。オーストラリアとニュージーランドの生活文化の歴史的背景や現状と将来について、周辺国とのつながりや多文化社会と関連づけて考える。
	9 土地の開発による生活文化の形成～ラテンアメリカ	
	10 植民と移民による生活文化の形成～オセアニア	
地球的課題と国際協力	1 地球環境問題	・持続可能な地球社会を考えるうえで、地球規模で起きている環境問題は、一国だけで対応できるものではないこと、多面的・多角的に考えていくことが必要であること、自らとかわる問題であること、SDGsをふまえて認識する。 ・深刻な地球環境問題を生じている大気汚染、森林減少、砂漠化、気候変動について事例をあげて捉え、それぞれの影響と将来の予測から解決の取り組みについて考える。
	2 資源・エネルギー問題	・地球規模で起こる資源の問題について主題図などの資料をもとに考え、偏在して分布することで保有国と非保有国との間に格差があることを認識する。 ・エネルギー資源の変化を捉えながら資源の大量消費によって枯渇の恐れがあることを認識し、これらの解決のための取り組みをSDGsと関連づけて考える。
	3 人口・食料問題	・人口が急増している世界の現状を捉えるとともに、人口ピラミッドや相関図などの資料から人口問題の構造と地域差を捉え、人口問題の背景や問題点を整理する。 ・持続可能な社会をつくるために、飢餓とその要因である人口問題、食料問題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれ異なる視点から根拠をもとにSDGsと関連づけ対応策を構想する。
	4 居住・都市問題	・世界では都市に人口が集まる現象がみられることを主題図やグラフから読み取り、人口が集まる都市内部の構造を景観をふまえ理解する。 ・途上国の大都市を中心に人口集中に伴う問題が生じていることを捉え、問題の要因を理解しながら、都市の問題の改善を目指した都市計画を取り上げ、SDGsと関連づけ都市問題の解決策を考える。
生活圏の諸課題	1 日本の自然災害と防災	・日本列島の地形と気候の特徴を主題図、グラフ、写真などの資料をもとに、多様性や自然の恩恵があることを認識しながら、自然災害を与える要素があることを理解する。 ・日本各地では毎年のように様々な自然災害が起きていることを理解するため、風水害、火山、地震・津波、都市型の災害の具体的な事例について、新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能とともに捉える。 ・自然災害はどのような自然環境と関係しているのか、それに対する備えはどうすれば良いのか考え、居住地域での防災・減災意識の向上につなげる。
	2 生活圏の諸課題と地域調査	・日本が抱える地域的な課題について、身近な地域を例に取り上げ、人口の少子高齢化、過疎化について景観観察や聞き取りを通じた調査の技能を身につける。 ・現地調査と統計資料によって得られた結果を主題図などにまとめ、他地域と比較して考察する技能を身につける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりのプランを発表する。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
地 歴	歴史総合	1 学年 普通科・国際科	2 単位	明解歴史総合 (帝国書院)	明解歴史総合ノート (帝国書院)，新詳歴史総合（浜島書店）

到達目標	・社会的事象の歴史的な見方や考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
------	---

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	近代化による国際秩序の変化、その後のグローバル化の進展に関する複数の資料を多角的に読み取り、そこから得た情報を適切に取り扱うことができた。	複数の資料を比較したり、関連付けたりして、多面的・多角的に考察し、近代化を読み解く問いを表現できた。	中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組むことができた。

学習の評価	①定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ②論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ① ②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到 達 目 標
1 部 歴史の扉	1 章 歴史と私たち 2 章 歴史の特質と資料	・身の回りの事象と世界の歴史が結び付いていることを理解できる。 ・身の回りの事象と世界の歴史の結び付きについて考察し、表現できる。 ・絵画や文書資料、統計データなどを事実と解釈とを区別して読み解くことの重要性や、歴史叙述の特性について理解できる。
2 部 近代化と私たち	序章 近代化への問い 1 章 江戸時代の日本と結び付く世界 2 章 欧米諸国における近代化	・人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現できる。 ・18 世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り理解できる。 ・中学校までの学習で得た知識を総合して、資料の地図データを読み解きながら、近代化以前の日本と、アジア、ヨーロッパの結びつきについて考察できる。 ・市民革命により近代市民社会の基礎が築かれ、産業革命によって確立した資本主義による欧米社会の変化および国際分業体制の形成を理解できる。

	3 章 近代化の進展と国民国家形成 4 章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5 章 近代化が進む日本と東アジア	・1848年を境とする国民国家の形成過程を理解したうえで、第2次産業革命を経た欧米諸国の帝国主義政策が、どのように世界を変えたのかを追究する手がかりを考察できる。 ・「西洋の衝撃」に対して、日本を含めたアジア諸国がどのように対応したのかに着目することで、欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について考察できる。 ・明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、現代社会に与えた影響と課題について理解できる。
3 部 国際秩序の変化や大衆化とわたしたち	序章 国際秩序の変化や大衆化への問い 1 章 第1次世界大戦と日本の対応 2 章 国際協調と大衆社会への広がり 3 章 日本の行方と第2次世界大戦 4 章 再出発する世界と日本	・人々の生活や社会のあり方が、国際秩序の変化や大衆化にともない変化したことについて考察できる。 ・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会変化について考察できる。 ・均衡勢力に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追求できる。 ・第1次世界大戦後、国際協調のためのしくみが形成されたこと、総力戦により大衆が一層台頭するようになり、大衆社会が成立したこと、アメリカを中心に大衆文化が育まれて世界に影響を与えていったことについて理解できる。 ・ファシズム体制の形成から第2次世界大戦の終戦に至るまで、大衆とメディアとの関わりに着目しながら、大衆の戦争協力が現代社会に与えた影響と課題について考察できる。 ・新しい国際秩序である国際連合と現実のアジア・ヨーロッパの冷戦構造のなかから戦後日本の政治の大衆化について理解できる。
4 部 グローバル化と私たち	序章 グローバル化への問い 1 章 冷戦で揺れる世界と日本 2 章 多極化する世界 3 章 グローバル化のなかの世界と日本	・人々の生活や社会のあり方がグローバル化にともない変化したことについて考察できる。 ・冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、現代社会に与えた影響と課題について理解できる。 ・冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について、資料を読み取り理解できる。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、世界情勢にどのような影響を与えたのか、さらに私たちの生活がどのように変わったかについて考察できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
公 民	公共	2学年 普通科 国際科	2単位	公共 (東京書籍)	ライブ！公共 2025(帝国 書院), 公共ワークノート (東京書籍)

到達目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けることができた。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できる。	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的、多面的・多角的に追究し解決しようとする態度を身に付けることができる。

学習の評価	① 定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ② 論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ① ② の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到達目標
1部 「公共」の とびら	1章 社会のなかの自己	・青年期の特徴と発達課題、及び個人・社会・伝統と文化の視点から人間のあり方について理解するとともに、自己形成及び社会形成に主体的に参画することの意義について主体的に追究する。
	2章 共に生きるための倫理	・現代の諸課題について判断し選択する際の手がかりとしての功利主義や義務論の考え方を理解するとともに、それらを使って生命倫理や環境倫理にかかわる課題について主体的に追究する。
	3章 私たちの民主的な社会	・公共的空間の基本原則とされる民主主義、法の支配と立憲主義、人間の尊厳と平等などの意義について理解するとともに、それらが大切である理由やそれらを実現する上での課題について主体的に追究する。

2部 自立した 主体として 社会に参画 する私たち	1章 民主政治と私たち	・政治と民主主義、地方自治及び国会、内閣のしくみと役割、政治参加と選挙、政党と利益集団、メディアと世論について、民主政治の実現の観点から理解するとともに、それらにかかわる課題について主体的に追究する。
	2章 法の働きと私たち	・法や規範の意義と役割、法の成立と適用、市民生活における法と契約、消費者の権利と責任、司法のしくみと司法参加の意義などについて、実際の社会生活の事象と関連させながら理解するとともに、それらにかかわる課題について主体的に追究する。
	3章 経済社会で生きる 私たち	・経済活動の意義、経済循環、市場経済のしくみと政府の役割、国民所得と経済成長、金融のしくみと動き、財政の働きと課題、社会保障の考え方と課題について、実際の社会生活の事象とも関連させながら理解する。 ・経済のしくみや動向についての基礎的理解を基礎に、経済についての政策、財政や金融に関する政策課題、社会保障にかかわる課題について関心を持って考察し、主体的に追究する。
	4章 私たちの職業生活	・資本主義社会における労働契約、労働者の権利と労働三法、雇用環境の変化と現代の労働問題などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ・働くことの意義、労働市場の役割、職業選択のポイント、多様化するキャリアの選択とキャリア形成の課題について主体的に追究する。
	5章 国際社会のなかで 生きる私たち	・国際社会の成り立ち、国際連合の役割、日本の平和主義と冷戦、冷戦後の日本、現代の紛争とその影響、国際平和に向けた課題、貿易のしくみ、国際金融のしくみと動向、グローバル化と国際経済、国際経済の諸課題について、実際の国際社会の事象とも関連させながら理解する。 ・国際政治、国際経済にかかわる諸課題について主体的に追究する。
3部 持続可能な 社会づくりに 参画するた めに		・現代社会の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりして、その解決に向けて主体的に追究する。 ・探究の結果や自らの主張を、論拠を明確にして説明したり表現したりする。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
数 学	数 学 I	1 年 普 通 科 国 際 科	2 単 位	高等学校数学 I (数研出版)	4 プロセス (数研出版)

到達目標	数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
------	---

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	基本的な概念や法則を理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができたか。	問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けることができたか。	数学のよさを認識し数学を活用しようとした数学的論拠に基づいて判断しようとして取り組んだりすることができたか。

学習の評価	1 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、数学的な考え方、数学的な技能をみるための問題も出題する。 2 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の4項目について、良い点および伸長の状況などを評価する。 (2) 演習ノートやレポートの提出状況・課題テスト・小テストの成績などを評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到達目標
第 1 章 数 と 式	第 1 節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 発展／3 次式の展開と因数分解 第 2 節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 発展／2 重根号 第 3 節 1 次不等式 6 不等式の性質 7 1 次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	数を実数まで拡張することの意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解して、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1 次不等式及び2 次方程式についての理解を深め、それらを活用できるようにする。 (1) 多項式 式の展開と因数分解について、目的に応じて式を変形し、見通しをもって式を扱うことができるようにする。 (2) 実数 中学校までに扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。また、絶対値や根号を含む式の計算ができるようにする。 (3) 方程式と不等式 不等式の基本性質と1 次不等式の解法について学び、不等式の解の意味について理解する。連立不等式や文章問題、絶対値が付いた不等式についても扱う。 2 次方程式の解の公式を導き、実数解を持つ2 次方程式を解けるようにする。 さらに、判別式や様々な2 次方程式の取り扱いについて学び、計算ができるようにする。
第 2 章 集 合 と 命 題	1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明 発展／「すべて」と「ある」の否定	(1) 集合と命題 ベン図や表を用いて、集合の包含関係や要素の個数など集合に関する基本的な事項を学ぶ。命題、必要条件、十分条件および逆・裏・対偶などは、定義をしっかりと理解させ、できるだけ集合で使うベン図や図表を用いて考える習慣をつけさせ、論理的な思考力を伸ばす。 また、ここでは、対偶を利用した証明や背理法による証明についても扱う。 2 次関数について理解し、関数を用いて数量の変

第 3 章 2 次 関 数	第 1 節 2 次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2 次関数のグラフ 第 2 節 2 次関数の値の変化 3 2 次関数の最大・最小 4 2 次関数の決定 第 3 節 2 次方程式と 2 次不等式 5 2 次方程式 6 2 次関数とグラフと x 軸 の位置関係 発展／放物線と直線の共 有 点 7 2 次不等式	化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や 2 次不等式を解くことなどに活用できるようにする。 (1) 関数とグラフ いろいろな関数を取り上げ、関数概念の理解を深める。 (2) 2 次関数の最大・最小 2 次関数の値の変化を考察することを通して、関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 (3) 2 次関数と方程式・不等式 2 次関数のグラフと x 軸との共有点を考え、2 次関数と 2 次方程式の関係について理解する。また、グラフと x 軸との位置関係から、1 次関数のグラフと 1 次不等式、2 次関数のグラフと 2 次不等式の関係について理解する。
第 4 章 図 形 と 計 量	第 1 節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第 2 節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 発展／ヘロンの公式 8 空間図形への応用	鋭角の三角比の意味や相互関係、それらを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解する。さらに、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 (1) 鋭角の三角比 正弦・余弦・正接を直角三角形における辺の比と角の大きさとの間の関係として導入し、その意味を理解する。 (2) 鈍角の三角比 角を鈍角や、0°，90°，180° の場合まで拡張し、正弦・余弦・正接の意義を理解できるようにする。また、それらの相互関係について学習し、計算ができるようにする。 (3) 正弦定理と余弦定理 三角形のそれぞれの辺と角との間に成り立つ基本的な関係を理解し、式の取り扱いができるようにする。 (4) 図形の計量 正弦定理や余弦定理などの活用場面として、平面図形や簡単な空間図形の計量を扱い、いろいろな図形の辺の長さ、面積・体積などが求められるようにする。
第 5 章 デ ー タ の 分 析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分 位数 4 分散と標準偏差 5 2 つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方 発展／仮説検定と反復試行 の確率	(1) データの散らばり ここでは、中学校での学習をさらに発展させて四分位数、四分位範囲、分散及び標準偏差などの用語を知り、意味を理解させるとともに、それらを利用してデータの傾向を的確にとらえ説明できるようにする。 場合によっては、表計算ソフトやグラフ電卓を用いて分散や標準偏差の計算を行う。 (2) データの相関 ここでは、2 つの変量の間にどのような関連があるかを考える。1 つの変量がもう 1 つの変量に強い関連がある場合と、ない場合がある。相関係数を用いて、その度合を計算する。 また、相関係数と散布図の関連を考察し、変量 X と Y の間の相関関係を調べる。 自分で学習のテーマを決めて考察する。
課 題 学 習		

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理 科	物理基礎	2学年 普通科国際科(理系)	2単位	改訂版 物理 基礎 (数研出版)	リードα 物理基礎 (数研出版)

到達目標	① 日常生活や社会との関連を図りながら、自然現象とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 日常生活の中で物理学に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、自然現象とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	自然現象とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習の評価	① 定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ② 論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ①②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到達目標
第1編 運動とエネルギー		・身のまわりの物体の運動と様々なエネルギーについて、理解できる。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができる。
	第1章 運動の表し方	・物体の運動のようすについて考えることができる。
	第2章 運動の法則	・等速直線運動、等加速度直線運動について計算で求めることができる。
	第3章 仕事と力学的エネルギー	・身のまわりの「力」について考えることができる。 ・物体にはたらく力と運動の様子について考えることができる。
第2編 熱	第1章 熱とエネルギー	・日常生活の中で使用するエネルギーに着目し、考えることができる。 ・力学的エネルギー保存の法則について理解することができる。
第3編 波	第1章 波の性質	・原子・分子の熱運動と物質の三態について関連付けて理解することができる。
	第2章 音	・内部エネルギーと仕事について理解することができる。
第4編 電気	第1章 波の性質	・自然の現象の波について考えることができる。
	第2章 音	・波の速さ、波長、周期、振動数の関係について理解することができる。
第5編 物理学と社会	第1章 物質と電気	・身近な電気製品からジュール熱と電力量について考えることができる。
	第2章 磁場と交流	・電流の大きさの表し方と、電流の向きと電子の移動の向きの関係について理解することができる。
	第1章 エネルギーの利用	・エネルギー保存の法則について理解することができる。
	第2章 物理学が拓世界	・電気エネルギー、光エネルギー、原子力エネルギー等様々なエネルギーについて相互に変換され使用されていることについて考えることができる。 ・物理学と関わる人々、職業について知り、これからの自分や未来について考えることができる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理 科	化学基礎	1学年 普通科・国際科	2単位	化学基礎 (東京書籍)	標準セミナー化学基礎 (第一学習社)

到達目標	①日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

学習の評価	①定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ②論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ①②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到達目標
1 編 化学と 人間生活	1章 化学とは何か	- 身のまわりの物や製品について、それらはどんな物質でできているという視点で考えることができる。 - 生活の中には多くの物質があり、化学変化を利用していることを理解できる。
	2章 物質の成分と構成元素 1 物質の成分 2 物質の構成元素 3 物質の三態	- 物質は純物質と混合物とに分類できることを理解できる。 - 物質の分離・精製の方法を理解できる。 - 物質は種々の元素から成り立っていること、元素は元素記号で表すこと、単体や化合物および同素体の存在及び成分元素の検出方法を理解できる。 - 物質には固体・液体・気体の3つの状態があり、それは熱運動が原因であることを理解できる。またそれに合わせ絶対温度の定義を理解できる。
2編 物質の構成	1章 原子の構造と元素の周期表 1 原子の構造 2 電子配置 3 元素の周期表 2章 化学結合 1 イオンとイオン結合	- 原子の構造、同位体の存在を理解できる。 - 原子の電子配置と価電子の意味および化学結合の基礎となる希ガスの電子配置も理解応用できる。 - 周期律と、それを一覧にした周期表の特徴を理解できる。特に価電子の数やイオン化エネルギーの周期的変化に注目する。周期表上での元素の分類や同族元素の名称、元素の陽性や陰性の傾向を理解できる。 - イオンの電子配置と希ガス型の構造の関係を理解するとともに、イオンからなる物質の構造と化学式の表し方を理解できる。 - イオンからなる物質の表し方を理解できる。 - イオンからなる物質の特徴的な性質・利用法などを理解できる。

3編 物質の変化	2 分子と共有結合	・共有結合のしくみ、分子式、電子式や構造式を理解できる。また配位結合と錯イオンについても理解できる。 ・物質は有機化合物と無機物質に分類できること、およびその利用法などを理解できる。 ・分子は原子が電子を引きつける強さの差により電氣的に正の部分と負の部分が(極性)できること、分子の形によって分子全体として極性が打ち消される分子と打ち消されない分子が存在することを理解できる。 ・分子結晶と共有結合の結晶について、性質が大きく異なることを理解できる。
	3 金属と金属結合	・金属の原子どうしの結合、それに伴う金属の性質が理解できる。 ・金属が身のまわりでどのように利用されているかを理解できる。
	4 化学結合と物質の分類	・粒子間にはたらく力、粒子の結合の種類を理解し、構成される結晶の分類ができ、その性質も理解できる。
	1章 物質と化学反応式	
	1 原子量・分子量・式量	・原子量によって異なる原子の質量が比較しやすくなることを理解できる。それをもとに、分子量や式量の定義を理解できる。
	2 物質質量	・ある一定の量を考えて、それを単位として扱う物質質量の概念を理解できる。演習などを通して数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質質量と体積も重要な関係があるのであわせて理解できる。
	3 溶液の濃度	・溶液の濃度について、パーセント濃度やモル濃度の定義を理解できる。
	4 化学反応の表し方	・化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことができる。
	5 化学反応の表す量的関係	・化学変化の量的関係を理解できる。
	2章 酸と塩基	
	1 酸と塩基	・酸・塩基について、アレーニウスの定義とブレンステッドの定義を学び、酸・塩基の反応を理解できる。 ・酸や塩基の価数、電離度による強弱を理解できる。
	2 水素イオン濃度とpH	・水は一部が電離していること、水溶液の酸性や塩基性の程度を pH により表すことができることを理解できる。
	3 中和反応と塩	・塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解できる。
	4 中和滴定	・酸と塩基が中和するときの量的関係を理解できる。滴定操作により酸や塩基の濃度を求めることができることを理解し、計算方法も体得する。また、滴定曲線と指示薬の関係も理解できる。
	3章 酸化還元反応	
	1 酸化と還元	・酸化や還元の定義を、酸素、水素、電子のやりとりから理解できる。 ・原子の酸化数が求められ、その増減から酸化と還元を理解できる。
	2 酸化剤と還元剤	・酸化剤と還元剤について理解ができる。 ・半反応式を用いて、酸化還元反応のイオン反応式や化学反応式をつくることができる。
	3 金属の酸化還元反応	・金属のイオン化傾向を理解し、金属の反応をイオン化傾向と関連させて理解できる。
	4 酸化還元反応の応用	・電池の一般的な原理を酸化還元と関連させて説明することができ、正極、負極、起電力の意味が理解できる。 ・一次電池、二次電池とは何かを、具体例とともに理解できる。 ・電気分解による物質の製造を理解できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理科	生物基礎	2 学年普通科 2 学年国際科	2 単位	生物基礎 (数研出版)	リードLightノート 生物基礎（数研出版）

到達目標	1 現代生物学の基礎となる代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を、最先端の生物学を織り交ぜながら学習する。 2 生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。 3 観察・実験を通して自然を科学的に探求する能力を育てる。さらに、実験に対する目的、仮説、準備、方法、結果、考察、発展という手順に従ったレポートを作成する能力を育てる。 4 命の営みを学習することで生命に対する畏敬の念を育て、生命を尊重する精神を養う。
------	---

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	・生物の進化と多様性の関係について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・実験・観察を通して、顕微鏡の使い方やスケッチの方法などの基本操作を習得するとともに、観察過程や結果を的確に記録、整理し、細胞の構造上の違いを科学的に探究する技能を身に付けている。	・生物の共通性としての細胞のさまざまなはたらきの中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	・地球上に存在する多種多様な生物にも必ず共通性がみられることに興味や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 ・細胞の中には多くの細胞小器官が存在し、それらははたらきで生命活動が行われていることに興味や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。

学習の評価	①定期考査において、A知識・技能、B思考・判断・表現を主に評価する。 ②観察・実験などを行い、予想や考察、器具の操作等からA知識・技能、B思考・判断・表現を、観察・実験に対する姿勢、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等でC主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ③①②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到達目標
第1編 生物の特徴	1 章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーの代謝 3. 呼吸と光合成 【実験】 ①顕微鏡の基本操作 ②真核細胞と原核細胞の観察 ③酵素の性質	・生物の特徴に挙げられる、多様性と共通性について理解する。 ・多くの生物の細胞には核が含まれているが、核がない生物も身近にいることを知る。 ・身のまわりの原核細胞・真核細胞を光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・代謝とエネルギーの関係性と、その仲立ちを行うATPについて理解する。 ・代謝は酵素によって円滑に進められていることを知り、その性質について理解する。 ・代謝の代表的な反応である「光合成」と「呼吸」について理解する。 ・ミトコンドリアや葉緑体の起源を知り、その根拠から理解する。
	2 章 遺伝子とその働き 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現 【実験】 ④DNAの抽出 ⑤細胞周期の観察 ⑥だ腺染色体の観察	・遺伝子の本体としてのDNAについて理解する。 ・身のまわりの材料のDNA抽出実験を通して、生物がDNAをもつことを確認する。 ・歴史的な研究成果を追いながら、誰のどのような研究により遺伝子の本体やDNAの構造が解明されたか、それぞれの経緯を理解する。 ・体細胞分裂に伴うDNAの複製と分配について理解する。 ・体細胞分裂時の染色体の動きを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。 ・細胞周期における各時期に要する時間と観察される数との関係について考察する。 ・遺伝情報がタンパク質の合成という形で発現する過程を理解する。 ・1つ1つの細胞は基本的に同じゲノムをもっているが、細胞によって発現する遺伝子に違いがあることを理解する。 ・発現する遺伝子に違いがあることを、だ腺染色体のパフを光学顕微鏡で観察し、スケッチする。

第2編 ヒトの 体内環 境の維 持	3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報の伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫の働き 【実験】 ⑦ブタの腎臓の観察	・脊椎動物の細胞は体液に浸されており、その状態が一定の範囲に維持されていることを理解する。 ・血液の成分と働きを理解する。 ・酸素解離曲線の意味と、酸素ヘモグロビンの結合に影響する諸条件について理解し、組織への酸素の受け渡し方について理解する。 ・血小板による血液凝固のしくみについて理解する。 ・体液の循環や特徴について理解する。 ・体液の循環や調節に関わる心臓・腎臓・肝臓などの働きを理解する。 ・腎臓におけるろ過と再吸収のしくみにより、老廃物は濃縮して尿となり、必要な物質は血液中に残す働きを理解する。 ・無脊椎動物や魚類における体液の濃度調節について理解する。 ・肝臓の構造と働きについて理解する。 ・自律神経系と内分泌系がどのように働いているか理解する。 ・体内環境は、自律神経系と内分泌系が協調して働くことによって調節されていることを理解する。 ・異物の体内への侵入を防いだり、侵入した異物を排除するしくみを理解する。 ・免疫のしくみが異常が起こることによって生じる病気があることを理解する。 ・免疫のしくみが、どのように医療に利用されているかを理解する。
第3編 生物の 多様性 と生態 系	4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	・陸上には、森林や草原などさまざまな植生があることを理解し、自分たちの住んでいる環境と比較する。 ・植生が年月を経て遷移していくことを理解する。 ・気候によって様々なバイオームがあり、世界や日本での分布の様子について理解する。 ・生態系の成り立ちを理解する。 ・生態系における物質(炭素、窒素)の循環とエネルギーの移動について理解する。 ・生態系は一定の範囲で変動することでバランスがとれていることを理解する。 ・人間活動による生態系への影響を理解し、保全のために何をしなければならぬかを考える。

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
理科	地学基礎	1 学年普通科 1 学年国際科	2 単位	地学基礎 (実教出版)	ビジュアルプラス地学基礎 ノート (実教出版) フォトサイエンス地学図録 (数研出版)

到達目標	①地学的な事物・現象についての観察実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高める。 ②地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 ③地球や宇宙の時間的・空間的な広がりの中における自己の位置を認識させ、地学的な考え方の習得を目指す。
------	--

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・地球や宇宙における事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	・地球や宇宙における事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・観察・実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に思考・判断し、記録、整理し表現している。	・地球や宇宙の事物・現象について関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。

学習の評価	①定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ②論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ①②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	--

単 元	学習内容	到達目標
1章 地球の構成と運動	1 節 地球の構造 2 節 プレーートの運動 3 節 地震と火山	・地球の形や大きさについて学ぶ。 ・地球に働く万有引力と重力の違いを理解する。 ・地殻がマントルに浮いているという概念を理解する。 ・地球の内部の層構造について理解する。 ・地球内部を構成する物質の化学組成や状態などを知る。 ・地殻は岩石から構成されていることを知る。 ・岩石には火成岩、堆積岩、変成岩があること、またその分類や成因、性質などを理解する。 ・鉱物が一定の化学組成をもつ結晶であることを理解する。 ・造山運動はプレート運動によること、日本の地形が典型的な島弧-海溝系であることを理解する。 ・プレートテクトニクスの元となる大陸移動説について理解する。 ・地震波の伝わり方や地震の大きさ、地震と断層運動について理解する。また、地震による被害の種類についても学ぶ。 ・火山と地震といった地殻変動を統一的に説明するプレートテクトニクスを理解する。 ・マグマの性質により、火山噴火の様式や噴出物、火山の形などが異なることを理解する。
2章 大気と海洋	1 節 大気の大気と運動 2 節 大気の大循環	・大気には層構造があること、大気圧や大気組成について学ぶ。また、各層の特徴を理解する。天気が関係する大気現象が対流圏で起こっていることを理解する。 ・大気の状態が変化すること、雲のでき方を理解する。 ・断熱変化、大気の安定・不安定、降水のしくみについて理解し、雲の成長と関係することを知る。 ・太陽放射と地球放射によって、地球全体のエネルギー収支のバランスをとっていること、大気中にある温室効果ガスの役割、気温の日変化による風の変化について理解する。 ・緯度による受熱量の違いによって、大気とエネルギーが循環していることを理解する。その際に起こる風によって、天気が変化することを理解する。

	3 節 海洋の構造と海水の運動 4 節 日本の四季の気象と気候	・気象と気候の違いを理解し、日本周辺の気団とその季節変化を知る。 ・地衡風や高層気象について、理解する。 ・気象と気候の違いを理解する。日本周辺にある気団とそれによる季節変化との関係を知る。 ・海洋の層構造について理解する。また、海水の運動と循環について学ぶ。 ・日本列島の地形や特徴を習得するとともに、日本の四季の特徴について学ぶ。
3章 宇宙、太陽系と地球の誕生	1 節 宇宙の誕生 2 節 太陽の誕生 3 節 惑星の誕生と地球の成長	・宇宙は星の大集団である銀河が数多く存在し、それらが大規模構造をつくることを学ぶ。 ・宇宙の誕生をインフレーション、ビッグバン、宇宙の晴れ上がり等を経て138億年後が現在の宇宙である事を学ぶ。 ・太陽の光球面や太陽大気で起こっている現象を学び、太陽の特徴を理解する。 ・太陽が主に水素からできており、内部の核融合反応で大量の光や熱を放出していることを理解する。 ・太陽の明るさや質量、大きさなどの特徴を学ぶ。 ・太陽がどのように誕生したかを学ぶ。 ・太陽が今後どのように変化していくかをHR図を使って学ぶ。 ・太陽系の構成天体とその特徴及び太陽系の大きさと広がりについて学ぶ。 ・太陽系の惑星の形成過程、惑星の内部構造との関係、太陽系の惑星を、地球型惑星、木星型惑星に分類し、それぞれの惑星の特徴を理解する。また地球や月の誕生を学ぶ。 ・太陽系天体の特徴を学ぶ。
4章 古生物の変遷と地球環境の変化	1 節 地層のできたかた 2 節 化石と地質時代の区分 3 節 古生物の変遷と地球環境	・地層がどのようにしてできるのか、重なりが時間的経過を示していることを理解する。 ・地質構造の変形から、古い時代に起こった地殻変動がわかることを理解する。 ・地質調査をし、地質図を書くと、その土地の歴史がわかることを知る。 ・化石の記録から分かる生物界の変遷に基づいて地質時代が区分されること、年代区分には相対年代と数値年代があることを理解する。 ・数値年代の例として、放射年代について理解する。 ・先カンブリア時代に起こった地球の大気の変化と、生命の誕生や進化の関係について理解する。 ・多様な生物が出現した古生代から、は虫類が大繁栄したのち大量絶滅の起こった中生代について学ぶ。 ・哺乳類が繁栄し、その中から人類が誕生した新生代について理解する。とくに、ヒトの進化では、直立二足歩行などの特徴を理解する。
5章 地球の環境	1 節 日本の自然環境 2 節 地球環境の科学	・日本列島がつくる自然の特徴について学ぶ。 ・日本列島で起こる災害と防災、自然がもたらす恩恵について学ぶ。 ・人間の活動が地球環境にどのように影響を与えたかを学ぶ。 ・気候変動と地球温暖化について学ぶ。 ・地球環境と物質循環について学ぶ。 ・地球環境問題と人間社会への影響について学ぶ。 ・これからの地球環境と地球の未来について学ぶ。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	1 年普 通 科 1 年国 際 科 1 年農業環境科 1 年福 祉 科	3 単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

学習の評価	①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現力等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論	・オリエンテーション ・集団行動 ・スポーツの歴史	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴を理解する。
体づくり 運動	・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・徒手体操 ・新体力テスト(スポーツテスト)	・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・徒手体操を集団で正確に雄大に実施する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高めるよう工夫する。
球 技	・サッカー ・バレーボール ・ソフトボール ・バスケットボール	・自己の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 ・勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、健康・安全に留意して活動ができるようになる。
選択 武 道・ ダンス	・柔道 ・剣道 ・創作ダンス	・自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに応じた攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度と安全に留意して練習や試合ができるようになる。 ・グループの課題や自己の能力に応じた課題を解決し、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 ・感情を込めたり楽しく踊ったりし、互いの良さを認め合い、協力して練習や交流・発表ができるようになる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	2年普通科 2年国際科 2年農業環境科 2年福祉科	2単位 2単位 3単位 2単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

学習の評価	①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現力等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論	・オリエンテーション ・集団行動 ・スポーツの歴史	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代スポーツの特徴を理解する。
体づくり運動	・体ほぐし運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・新体力テスト(スポーツテスト)	・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高めるよう工夫する。
球 技	・ソフトボール ・サッカー ・バレーボール ・バドミントン ・バスケットボール ・卓球	・自己の能力やチームの課題に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになる。 ・勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、健康・安全に留意して活動ができるようになる。
選択 武 道・ ダンス	・柔道 ・剣道 ・創作ダンス	・自己の能力に応じて運動の技能を高め、相手の動きに応じた攻防を展開して練習や試合ができるようになる。 ・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、公正な態度と安全に留意して練習や試合ができるようになる。 ・グループの課題や自己の能力に応じた課題を解決し、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 ・感情を込めたり楽しく踊ったりし、互いの良さを認め合い、協力して練習や交流・発表ができるようになる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	体 育	3年普通科 3年国際科 3年農業環境科 3年福祉科	3単位 2単位 3単位 2単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	

到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。
------	--

	② 知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

学習の評価	学習状況での ①知識及び技能を実技テストで、②思考・判断・表現等、③学びに向かう力、人間性等を加味し総合的に評価する。
-------	---

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
体育理論 体づくり 運動 ダンス 選択 A 球技・ ダンス 選択 B 球技 選択 C 球技	・オリエンテーション ・集団行動 ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・新体力テスト(スポーツテスト) ・フォークダンス ・リズムダンス ・ソフトボール ・テニス ・サッカー ・バドミントン ・ダンス ・卓球 ・ビーチボール ・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン ・卓球 ・バスケットボール ・卓球 ・バドミントン	・体育のねらいを理解する。 ・整然と集団行動ができる。 ・ライフスタイルに応じたスポーツとのかかわり方を理解する。 ・自分の体に関心を持ち、体ほぐしをしたり、体力を高めたりする。また、互いに協力して様々な運動を実践する。 ・スポーツテストを行い自己の能力を知り、さらに能力を高められるように工夫する。 ・伝統的なダンスを習得する。 ・体育大会用のダンスを創作し、表現と発表の資質を養う。 ・意欲的な態度で種目決定が行える。 ・班や個人の技量に応じた目標を立て、工夫した活動計画の立案ができる。 ・班毎に協力しながら活動し、技能をたかめることができる。 ・競技の特性を理解し、安全に留意し活動ができる。また、競技方法やルールを理解し、ゲームができる。 ※ 選択 A と同様 ※ 選択 A と同様

教科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	保 健	1年普通科 1年国際科 1年農業環境科 1年福祉科	1単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	現代高等保健ノート (大修館書店)

到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。
------	---

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

学習の評価	定期考査で①知識及び技能や②思考・判断・表現について、学習状況で①②③を加味し総合的に評価する。
-------	--

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
現代社会と健康	- 健康の考え方と成り立ち - 私たちの健康のすがた - 生活習慣病の予防と回復 - がんの原因と予防 - がんの治療と回復 - 運動と健康 - 食事と健康 - 休養・睡眠と健康 - 喫煙と健康 - 飲酒と健康 - 薬物乱用と健康 - 精神疾患の特徴 - 精神疾患の予防 - 精神疾患からの回復 - 現代の感染症 - 感染症の予防 - 性感染症・エイズとその予防 - 健康に関する意思決定・行動選択 - 健康に関する環境づくり	- 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきており、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解する。 - 健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わっていることを考察する。 - 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられることやその予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解する。 - 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解する。 - 喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になることや薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解する。また、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを考察する。 - 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることを理解する。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを考察する。
安全な社会生活	- 交通事故の現状と発生要因 - 安全な社会の形成 - 交通における安全 - 応急手当の意義とその基本 - 日常的な応急手当 - 心肺蘇生法	- 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解する。 - 交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わっていることを理解する。また、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを十分に理解する。 - 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できることや応急手当には、正しい手順や方法があることを理解する。 - 応急手当は、障害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解する。また、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができる。

教科	科 目	対象学年学科	単位数	教 科 書	使 用 教 材
保健体育	保 健	2年普 通 科 2年国 際 科 2年農業環境科 2年福 祉 科	1 単位	現代高等保健体育 (大修館書店)	現代高等保健ノート (大修館書店)

到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
------	--

	①知識及び技能	②思考・判断・表現等	③学びに向かう力、人間性等
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

学習の評価	・定期考査で①及び②について、学習状況で①、②、③を加味し総合的に評価する。
-------	--

単 元	学 習 内 容	到 達 目 標
生涯を通じる健康	ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。
社会生活と健康	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医療品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。 ・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。 ・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。 ・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸術	音楽Ⅰ	1年 普通科 1年 国際科 1年 農業環境科 1年 福祉科	2 単位	ON! 1 (音楽之友社)	Music Note (啓隆社)

到達目標	・歌唱・器楽・鑑賞などの幅広い活動を通して、音楽を愛好する心を身に付けるとともに、感性を豊かにし、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・互いの個性を理解し、認め合うことで、より幅の広い視野や価値観を身につける
------	---

評価の観点	知識・技術	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について、理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思考・判断表現	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図を持ったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学習の評価	①筆記テスト、実技テストによる評価 ②プリントや感想等の提出内容による評価 ③授業時の取り組み、様子、出席状況による評価 ★①～③を総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	学習到達目標
	「オリエンテーション」 ・音楽Ⅰの授業の進め方について	・授業の進め方を理解することができる。
歌唱	「歌を歌おう」 「様々な言語で歌おうⅠ」 「様々な言語で歌おうⅡ」	・楽曲の良さを感じ取り、無理のない発声で、歌うことができる。 ・イタリア語の歌曲に触れ、のびやかな発声を身につけることができる。 ・英語の楽曲の良さを感じ取り、発音に気をつけて、無理のない発声で、のびやかに歌うことができる。 ・ドイツ語の発音に慣れ、発音に気をつけて、のびやかにドイツ歌曲を原語で歌うことができる。

楽典 器楽 創作	「楽譜の読み方」 「リズムうち」 「和音」 「伴奏付け」 「創作」	・基礎的な楽譜の読み方を身につけることができる。 ・習得した知識を元に、簡単なリズム打ちができる。 ・和音について、基礎的な内容を理解できる ・和音について理解した知識を元に簡単な旋律の伴奏付けをすることができる。 ・これまで習得した知識を元に、簡単な旋律の作曲をすることができる。 ・自作の曲に、和音付けをすることができる。
器楽	「箏に親しもうも う」	・箏の基礎的な奏法を理解できる。 ・平易な曲を練習し、演奏することができる。
鑑賞 音楽 史	「いろいろな曲を鑑 賞しよう」 「西洋音楽史、日本 音楽史」 「近代～現代音楽」	・様々な曲に興味を持って、その曲の良さを感じ取り主体的に鑑賞することができる。 ・鑑賞をとおして、それぞれの時代の音楽的な特徴や歴史的背景を理解することができる。 ・様々な時代の音楽史について知り、その特徴を理解することができる。
歌唱 器楽 鑑賞	「ミニコンサート」	・個人またはグループで、演奏する曲を決め、主体的に友達と協力しながら、練習に取り組むことができる。 ・人前で発表することを意識し、表現を工夫することができる。 ・友達の演奏を聴き、演奏の良さを感じとりながら、鑑賞できる

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸 術	美術 I	1 年普通科 1 年国際科 1 年農業環境科 1 年福祉科	2 単位	高校美術 (日本文教出版)	

到達目標	- 鑑賞を通じて、造形的な見方・考え方を学ぶとともに、確かな描画や造形の基礎力を身に付け、生涯を通じて芸術に親しむ心情を養う。 - 互いの個性を理解し認め合うことで、より幅の広い視野や多様な価値観を身に付ける。
------	--

評価の観点	知識・技能	- 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 - 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
	思考・判断 ・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

学習の評価	① 制作した作品による評価 ② プリントや感想等の提出内容による評価 ③ 授業時の取組、様子、出席状況による評価 ★①～③を総合的に評価する。
-------	--

単元	学習内容	学習到達目標
オリエンテーション	「美術 I について」	高校美術の学習の意義・自然と人間・生活や歴史と美術の関わりについて理解する。
表現 絵画	「クロッキー」 「デッサン」	- 形の捉え方を理解し、線の強弱を用いて表現ができる。 - 構造的に形を把握し、明暗や質感を描くことができる。
表現 絵画	「鉛筆画」	- 構図を考えて、モチーフを配置することができる。 - 明暗で立体感と奥行きを表現できる。 - モチーフの質感を描くことができる。
表現 絵画	「自画像」	- 自己の内面も表現できるよう、構図やアングル、表情、色彩などを組み合わせ構想することができる。 - 色のもつ特性や効果を理解し、色塗りすることができる。

鑑賞	「西洋美術史」	・ギリシャ文明・ローマ美術・ロマネスク美術・ゴシック美術の代表的な建築物や美術作品について、作者や特徴など説明できる。 ・ルネサンスの三大巨匠の作品について説明できる。
表現 デザイン	「ロゴデザイン」	・ロゴデザインのもつ役割について理解できる。 ・ロゴに必要な要素について理解できる。 ・色のもつイメージを理解し、配色に生かすことができる。
表現 彫刻	「異素材の組み合わせによる立体」	・質感や量感、動勢を意識した造形ができる。 ・それぞれの素材の持つ特性を生かして構成し、表現することができる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
芸 術	書道 I	1 年普通科 1 年国際科 1 年農業環境科 1 年福祉科	2 単位	書 I (光村図書)	

到達目標	・書の表現方法や多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基本的な技能を身に付けるようにする。 ・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構成し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 ・主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
------	--

評価の観点	知識・技能	・書の専門的な知識について理解している。 ・用筆、運筆、字形のとり方などの特徴を捉えて書く力を身に付けている。
	思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
	主体的に学習に取り組む態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。

学習の評価	・学習活動への参加状況（制作活動への取り組み状況） ・学習記録 ・制作作品（完成度）
-------	--

単 元	学 習 内 容	学 習 到 達 目 標
オリエンテーション	書道の学習分野 書写から書道へ	・書道の学習分野や国語科書写と芸術科書道の違いを理解する。 ・漢字の成り立ちと書体の変遷について理解する。 ・書道の学習に必要な用具・用材について理解し、正しく丁寧に扱う。
漢字の書	楷書古典の鑑賞・臨書 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 造像記 鄭義下碑 篆刻 印稿作成、運刃 押印・鑑賞	・古典を臨書する意義について理解する。 ・楷書古典について理解し、風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。 ・篆刻の用具・用材について理解し、篆刻の基礎的な技法を身に付ける。

	漢字作品の創作 行書古典の鑑賞・臨書 蘭亭序 風信帖	・創作の手順を理解し、学んだ古典の特徴や技法を生かして創作する。 ・お互いの創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 ・行書古典について理解し、風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。
仮名の書	仮名の基礎 基本点画 いろは歌 連綿 散らし書き 古筆の鑑賞・臨書 蓬萊切 高野切	・仮名の成立や仮名の種類などについて理解する。 ・仮名の用具・用材と特徴について理解する。 ・仮名の線質について理解し、単体や連綿の基礎的な技法を身に付ける。 ・「行書き」と、「散らし書き」の紙面構成法について理解する。 ・平安古筆の風趣を味わったり価値について考えたりすることができる。 ・用筆・運筆・結構法などについて分析しながら臨書する。
漢字仮名交じりの書	漢字仮名交じりの書の鑑賞・創作 生活の中の書	・身近にある漢字仮名交じりの書を知る。 ・漢字と仮名の調和を図りながら紙面構成を考え、創作する。 ・表現の意図に合うように、用具用材、字形、用筆等に工夫する。 ・お互いの創作作品を鑑賞し、感想を述べ合う。 ・生活の中の書について考え、その効用について理解する。（硬筆・手紙の書等）

令和7年度 英語コミュニケーションⅠ 公開用シラバス

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	副教材
外国語 (英語)	英語コミュニケーションⅠ	1年 普通科	4単位	Heartening English CommunicationⅠ (桐原書店)	教科書準拠 スタディノート ワークブック

到達目標	1. 日常的な案内、指示、放送などを聞いて、課題解決のために必要な情報を聞き取ることができる。 2. 社会的な話題についての説明文や意見文を読んで、目的に応じて概要や要点を理解することができる。 3. 興味や関心のある社会的な話題に関して、相手の意見を踏まえながら考えつつ整理して、議論を続けることができる。 4. 日常的な話題に関する情報に基づいた説明を、相手の理解に配慮しながら、わかりやすく伝えることができる。 5. 社会的話題に関して、相手にわかりやすいように考えを整理して、意見を展開して書くことができる。
------	--

評価の 観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して伝える技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、さらに、これらを活用して適切に表現し、伝え合っている。	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習の 評価	1. 授業中の活動への取り組み状況。 2. 課題の提出状況。 3. パフォーマンステスト（スピーチ、プレゼンテーション、ディベートなど） 4. 定期考査（中間考査、期末考査）
-----------	--

単元	学習内容	到達目標
Lesson 1 Bringing Out the Best in Himself	現在形／過去形／進行形、未来表現	現在形、過去形、進行形、および未来表現の文の特徴やきまりを理解できる。 英語を学習しながら NBA 選手になる夢を実現した八村塁選手の半生を描いた物語文を読み、概要を理解することができる。また、インタビューで質問したり、質問に答えたりすることができる。さらに、インタビューした情報を整理して、記事を書くことができる。
Lesson 2 Hold On, Anzu!	現在完了形／現在完了進行形、過去完了形／過去完了進行形	現在完了形、現在完了進行形 および過去完了形、過去完了進行形の文の特徴やきまりを理解できる。 捨てられた小型犬が警察犬として活躍するまでを述べた物語文を読み、概要を理解することができる。また、アンズの印象について、クラスでプレゼンテーションをしたり、ほかの人のプレゼンテーションについて質問したりすることができる。さらに、アンズの印象について、話を整理してわかりやすく書くことができる。
Lesson 3 We Can Make a Difference	助動詞、助動詞の過去形	助動詞および助動詞の過去形の文の特徴やきまりを理解できる。 世界の人々が受けている気候変動の影響と、問題への取り組みについて述べた説明文・意見文を読み、概要を理解することができる。また、CO2削減の取り組みについて話し合い、意見をまとめ、クラスで伝えることができる。さらに、その意見をわかりやすく整理して書くことができる。

Lesson 4 Creative Problem Solving	さまざまな受動態，前置詞	様々な受動態および前置詞の文の特徴やきまりを理解できる。 人間の心理や行動の特徴を利用し、創造的にポイ捨てをなくす方法を述べた論証文を読み、概要やメッセージを理解することができる。また、ポイ捨てを減らす効果的な方法について、賛成・反対を表明し、決定に向けた意見交換をしたり、質問文を書いたりすることができる。
Lesson 5 Canned Bread to Feed the World	不定詞，SV（知覚動詞・使役動詞）＋O＋動詞の原形	不定詞およびSV（知覚動詞・使役動詞）＋O＋動詞の原形の文の特徴やきまりを理解できる。 食糧廃棄問題の解決と飢餓地域への支援を可能とするシステムを構築したパン・アキモトの取り組みを述べた物語文を読み、要点や詳細を理解することができる。また、パンの缶詰に関する情報を整理して、わかりやすく伝えることができる。さらに、救缶鳥プロジェクトへの参加を勧めるメッセージを書くことができる。
Lesson 6 Could We Have a Real Jurassic Park?	動名詞，SVC（分詞）	動名詞およびSVC（分詞）の文の特徴やきまりを理解できる。 恐竜再生の可能性について論じた説明文を読んだり、会話を聞いたりして、要点や詳細を理解することができる。また、恐竜再生の可能性について、相手の発言の意図を確認しながら、自分の意見を言ったり、自分の意見を理由とともに述べるパラグラフを書いたりすることができる。
Lesson 7 Behind the Price Tag	SVOC（分詞），分詞構文	SVOC（分詞）および分詞構文の文の特徴やきまりを理解できる。 安価な衣類製造プロセスにおける労働者の実態を述べた説明文と問題に対して対立する二者の意見文を読んだり、聞いたりして、要点や詳細を理解することができる。また、相手の意見に賛成・反対を表明し、その理由を説明することができる。さらに、現代のファッション業界の問題点について、異なる立場の主張を交えながらパラグラフで書くことができる。
Lesson 8 The World's Winter Festivals	比較に関する表現，従属接続詞	比較に関する表現および従属接続詞の文の特徴やきまりを理解できる。 世界の冬の祭りを比較し、その共通性について論じた説明文を読み、要点や詳細を理解することができる。また、相手の情報を確認しながら、インタビューをすることができる。さらに、祭りに参加するための申し込み用紙に必要な事項を適切に書き入れることができる。
Lesson 9 Talking Trees	関係代名詞，関係副詞／関係代名詞の非制限用法	関係代名詞および関係副詞，関係代名詞の非制限用法の文の特徴やきまりを理解できる。 木々が大きな森となって繁栄するために互いに協力している科学的事実を述べた説明文を読み、要点や詳細を理解することができる。また、相手の発言の意図を確認しながら、自分の意見を言うことができる。さらに、展示で印象に残ったことや他の生物の関係について、具体例を示しながらわかりやすく書くことができる。
Lesson 10 Capturing the Reality of the World	仮定法過去／仮定法過去完了，仮定法を使った表現	仮定法過去，仮定法過去完了および仮定法を使った表現の文の特徴やきまりを理解できる。 フォトジャーナリスト安田菜津紀氏が仕事を通じて学んだ使命について述べた物語文を読み、要点や詳細を理解することができる。また、インタビューで質問をしたり、質問に答えたりすることができる。さらに、安田さんの情報やメッセージを整理して、わかりやすい紹介記事を書くことができる。

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
家庭	家庭基礎	1 年 普通科 1 年 国際科	2 単位	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	資料集 最新生活ハンドブック資料&成分表 (第一学習社)

到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
------	--

	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

学習の評価	【知識・技能】 ・定期考査、および 授業で扱った小テスト ・実習での作品の完成度 ・各学習分野における達成度 【思考・判断・表現】 ・定期テスト ・授業のワークシートや課題レポート、作品など提出物の提出状況 (内容の充実度合) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・授業態度、実験・実習等への積極的な参加と貢献度、授業ワークシートの取り組み ・ホームプロジェクトの提出とその達成度
-------	---

単元	学習内容	到達目標
家族・社会との共生 1 章 生涯を見通す	1.人生を展望する 2.目標を持って生きる	・家族を単位としたライフステージがあり生活課題があることを理解し、自分の人生について考える。 ・多様化しつつある現代の家族の特徴、家族の機能の変化、民法について理解する。
2 章 人生をつくる	1.人生をつくる 2.家族・家庭を見つめる 3.これからの家庭生活と社会	・家事分担を通して、多様化する家族像・自立・労働・などについて理解する。
3 章 子どもと共に育つ	1.命を育む 2.子どもの育つ力を知る 3.子どもと関わる 4.子どもとの触れ合いから学ぶ (保育実習) 4.これからの保育環境	・乳幼児の発達の特徴を、家庭や環境との関わりをとおして理解し、子どもの成長に関わる立場である親や家族の役割と責任を考える。 ・赤ちゃんふれあい体験、保育見学を通して、乳幼児への理解を深める。 ・少子社会における子育て支援・児童福祉の意義について理解する。
4 章 超高齢社会を生きる	1.超高齢大衆長寿社会 2.高齢者の心身の特徴 3.これからの高齢社会	・高齢期の心身の変化や特徴について知り、高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題について考える。
5 章 共に生き、共に支える	1.私たちの生活と福祉 2.社会保障の考え方 3.共に生きる	・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかかわっていけばよいか考える。
生活の自立 6 章 食生活をつくる	1.食生活の課題について考える 2.食事と栄養・食品 3.食生活の選択と安全	・自分の食生活の現状を把握し、食と健康のかかわりについて考える。 ・栄養素の種類と働き、その食品との関連を理解する。食の安全について理解する。 ・班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行うことができる。

	4.生涯の健康を見通した食事計画 5.調理の基礎 調理実習 6.これからの食生活	・家族の日常の食生活に必要な食物に関する基礎的知識や技術を習得させ、食生活を計画的かつ合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。
7章 衣生活をつくる	1.被服の役割を考える 2.被服と表示、材料、性能 3.被服を管理する 被服製作 4.これからの衣生活 5.布を用いた生活の知恵	・衣服の起源、衣文化、衣服のはたらき、被服材料の特徴について理解する。 ・家庭経営の立場から家族の日常の衣生活に必要な被服に関する基礎的知識や技術を習得し、衣生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。
8章 住生活をつくる	1.住生活について考える 2.住生活の計画と選択 3.これからの住生活	・自分の日常生活を振り返り、生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解し、自分や家族のライフステージに応じた、快適な住生活について考える。 ・身近な地域の住環境について分析し、「住みよい環境」のためには何が必要か考える。
9章 経済生活を営む	1.職業生活を設計する 2.国民経済・国際経済と家庭の経済生活	・契約や消費者信用、多重債務問題、消費者基本法などの消費者保護の仕組みについて理解し、消費者としての適切な判断ができるようにする。
10章 持続可能な生活を営む	3.現代の消費社会、契約トラブル 4.これからの消費生活と環境	・多様化する現代の消費生活の課題について認識し、ひとりの消費者として、主体的に考え行動することの必要性について理解できる。 ・消費生活と環境の関わりについて関心を抱き、環境負荷の少ない生活の在り方について認識できる。
生活の創造 11章 生活を創造する	1.生活をデザインする	・ライフプランガイドを活用して自分の生活を見直し、生活設計ができる。
ホームプロジェクトの実践 学校家庭クラブについて		・ホームプロジェクトを計画に基づき、自主的に解決を目指して実践することができる。 ・学校家庭クラブ活動について、日ごろの学びも含め、積極的に実践することができる。 ・近隣の園児へ手作りおもちゃのプレゼント。近隣駅待合室の手作り座布団の製作。

教 科	科 目	対象学年学科	単 位 数	教科書	使用教材
情 報	情 報 I	2 年 普 通 科 国 際 科	2 単 位	高等学校情報 I (数研出版)	情報 I サポートノート (数研出版)

到達目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行なう学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。
------	--

評価の 観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けることができたか。また、情報社会と人との関わりについて理解することができたか。	事象を情報とそれの結びつきを視点から捉え、向付いた問題の情報と効果的に活用し、適切な力を身につけたか。	情報社会との関わりについて情報技術を活用し、情報と情報技術の活用ができたか。

学習の評価	①定期考査では「知識・技能」「思考・判断・表現」を中心に評価する。 ②実習への取り組み・課題の提出状況・授業中の発問と応答などにより、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ①の評価に、②および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	---

学習内容	到達目標
1. 情報社会の問題解決 ・情報とメディア ・情報社会における法とセキュリティ ・情報技術が社会に及ぼす影響	・情報や、情報の信頼性について理解できる。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティについて、理解でき、考えられる。 ・発展する情報技術がもたらす社会・生活の変化、ネットトラブルと情報技術の適切な活用について、理解でき、考えられる。
2. コミュニケーションと情報デザイン ・情報のデジタル表現 ・コミュニケーション手段の発展と特徴 ・情報デザイン ・プレゼンテーション	・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術と、データ圧縮の原理について理解できる。 ・通信の歴史とコミュニケーション手段の発展について理解できる。また、適切なメディアの選択と利用方法を身に付ける。 ・情報デザインへの役割を理解でき、効果的な情報デザインを考えられる。 ・プレゼンテーションの基本や手法を理解でき、使い方を理解できる。
3. コンピュータとプログラミング ・コンピュータのしくみ ・プログラミング ・モデル化とシミュレーション	・コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの基本を理解できる。 ・プログラム言語の実行の仕組みやプログラムの基本を理解でき、プログラムでコンピュータを本活用する方法を身につける。 ・モデル化とシミュレーションの考え方や方法、事象をモデル化して改善する方法について理解でき、結果を踏まえた解決方法を考えられる。
4. 情報通信ネットワークとデータの活動 ・ネットワークのしくみ ・データベース ・データの分析	・情報通信ネットワークについて理解でき、セキュリティを確保する一方に等しい考えられる。 ・データをベースの概念や機能、データベース活用の実際に基づいて理解できる。 ・データの形式に関する知識と、データを収集・整理・分析する方法について理解でき、簡単なデータ処理や分析を行う方法を身につける。